

2021年7月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

## 「活・人・経・営<sup>®</sup>」コラム第87回

### <経営と論語>

弊社で謳っている「活・人・経・営」のコンセプトには、論語由来の「温故知新」の考え方を加味しています。論語は孔子の言行録として、人の生き方や社会の在り方など物事の道理を多くの弟子たちがまとめたもので、既に25世紀以上の時を経ても現代の経営に通じる意義の深い言葉がたくさん編纂されています。

この論語から影響を受けた日本の偉人は多く、特に幕末から昭和にかけて幕臣、官僚、実業家として多大な功績を残した渋沢栄一は、論語を精神的支柱とした経済活動により、人や社会から多くの信頼を得て、500もの会社設立に関与したとされ、日本の経済界に偉大な足跡を残しました。現在NHKの大河ドラマ「青天を衝(つ)け」でもこの渋沢栄一の生涯を放映しています。

孔子は自分の一生を年齢の節目で回顧し、人生の目標や目安を弟子たちに次のように示しています。

子(し)曰(いわ)く、

吾(われ)、十有五(じゅうゆうご)にして学(まな)ぶに志(こころ)す。

三十にして立つ。

四十にして惑(まよ)わす。

五十にして天命(てんめい)を知る。

六十にして耳順(じりじゆん) (したが) う。

七十にして心(こころ)の欲(ほ)する所に従(したが)いて矩(のり) (こ) を踰(こ) えず。

弊社の場合、顧客企業の未来(ありたい姿)から現在を俯瞰し、近未来の目標(あるべき姿)を設定して活動のロードマップを描きます。その活動の節目にはマイルストーンを置き、進捗を検証していきます。

人も組織も油断をすると、継続して前進することが緩(ゆる)みがちになりますので、常に背伸びすれば届く目標(ストレッチゴール)を設定し、具体的な道標を掲げながら日々の活動を推進したい。ここから未来を拓く力強い実践力が生まれてきます。

### <渋沢栄一『論語と算盤』の哲学から>

「私は論語で一生を貫いて見せる。金銭を扱うが何ゆえ賤(いや)しいか。君のように金銭を賤(いや)しむようでは、国家は立たぬ」

— 出典：『論語』の言葉 一個人編集部 編 —